



まちの話題

= TOWN TOPICS =



おいで祭り 20周年を迎える

9/5~6

水上温泉おいで祭りが、ふれあい交流館・湯原温泉街にて開催されました。

初日に行われたおいで踊りパレードには9団体・約200人が参加し、「おいでやおいで」のかけ声に合わせて会場を練り歩き、温泉街を盛り上げました。

2日目の御輿パレードでは、法被姿の参加者が会場を彩り、大人から子どもまで威勢よく御輿を担ぎました。

20周年を迎えたおいで祭りには、地元の方をはじめ、帰省した若い世代や町外の方など、2日間で約3,000人が来場し、大きな賑わいをみせました。



▲おいで踊りパレード



▲幅広い世代が一体となり、祭りを楽しみました



▲御輿パレード



夜空を彩る 赤谷湖上花火大会

8/28~30

「みなかみ猿ヶ京温泉祭第53回赤谷湖上花火大会」が開催されました。今年は打ち上げ方法を例年から変更し、3日間連続で各日10分ずつ花火が打ち上げられました。赤谷湖周辺に集まった多くの観客が、夜空に美しく咲く大輪の花火を見上げ、夏の風情を楽しみました。

また、会場では日替わりでイベントが開催されるなど、多くの観客で賑わいました。



▲赤谷湖上に打ち上げられた花火



群馬県B&Gカヌー教室が開催

8/20

群馬県B&G連絡協議会によるカヌー教室が赤谷湖で開催されました。海洋センターがある県内4自治体の小学生を対象に毎年実施している事業で、今年は15人の参加者が集まりました。子どもたちは水辺の安全教室でライフジャケットの大切さを学んでからカヌーに挑戦し、「安全に楽しむこと」の大切さを学ぶことができました。お昼にはバーベキューで参加者同士の交流を深めるなど、自然の中で学びと笑顔あふれる一日となりました。



▲自然の中でカヌー体験を楽しむ



まちの話題

= TOWN TOPICS =



プールでウォーター アクティビティを満喫 8/6・10・12

B&G海洋センターにて「プールdeカヌー & SUP体験会」が開催されました。全9教室には80人を超える方々が参加し、カヌーやSUPに挑戦しました。上手に漕いだり、バランスを取ったりしながら、笑顔いっぱいに楽しみました。

体験前には水辺の安全教室も行い、ライフジャケットの大切さや、水辺で安全に楽しむためのポイントを学びました。



▲SUPやカヌーに挑戦する参加者



第1回 短歌草野球を開催 8/1

カルチャーセンターにて、短歌の表現力を競い合う「短歌草野球」が初めて開催されました。年齢を問わず誰でも参加できるこの大会には、全国各地から短歌を愛する選手たちが集まりました。

町にゆかりのある歌人やラッパーが審査員を務めるなか、選手たちは熱いディベート（質疑応答）を通じて作品の感性を競い合いました。勝敗を超えて互いの表現を尊重しあう真剣勝負に、会場は温かい拍手と熱気に包まれました。



▲詠まれる短歌に真剣に耳を傾ける選手と審査員



ICTを活用した より良い授業づくりを学ぶ 7/30～31

みなかみ町教育委員会は、町内小中学校の教員約90名を対象に、Google Workspace（Googleドライブなどを備えた、授業で使えるクラウド型学習ツール群）を活用した授業づくりを学ぶ研修会を開催しました。2日間にわたり習熟度別のコースで実施され、どの会場でも教員たちが真剣な眼差しで熱心に学びを深めていました。今後も子どもたちのより良い学びのために、教員のICT活用力の向上を推進していきます。



▲研修の様子



知的障害者福祉月間に記念行事 9/8

知的障害者福祉月間にあわせて、障害者のメッセージを自治体に届ける「知的障害者福祉月間記念行事」が開催されました。

今年で53回目となった本行事は、知的障害者についての理解を深めるとともに、教育の推進と福祉の向上と充実を目的として、県内各地で同日開催されています。本町では、くりのみ学園の代表者が町長にメッセージの伝達と記念品の贈呈を行いました。



▲町長へメッセージの伝達をする山岸さん



まちの話題

= TOWN TOPICS =

里山カメラ館
オープニングセレモニー

9/11

たくみの里にある「古民家ギャラリー 里山カメラ館」のオープニングセレモニーが開催されました。日本カメラ博物館の分館として同館の整備を担った、日本カメラ財団の櫻井理事長は「町のみなさんと一緒に地域を活性化していきたい」と挨拶。再生された明治期の古民家には、貴重なカメラや、たくみの里の四季を捉えた写真などが展示され、文化振興や地域の魅力発信とともに、交流の拠点となることが期待されます。



▲阿部町長(左)、櫻井理事長(右)によるテープカット



「木とあそぼう」親子で体験

8/9

「第4回 木とあそぼう」が上牧公民館で開催されました。「こどもも大人も楽しもう」をテーマに、当日はたくさんの親子が木のおもちゃや竹とんぼで遊んだり、丸太切りや火おこし体験を行ったりと、会場には賑やかな声が響きました。ウッドスタート宣言から10周年を迎えたみなかみ町。地域のみなさんに支えられながら根差してきた木育の活動を通して、世代を超えて交流を深める特別な一日となりました。



▲丸太切り体験の様子



谷川岳・平標山で登山道整備を実施

7/17・8/6・9/1

登山道は、自然を守りつつ安全に登山を楽しむために重要な存在です。しかし近年、集中豪雨や歩行による荒廃、資金・人材不足が全国的な課題となっています。谷川岳エコツーリズム推進協議会では群馬県と共に令和6年度から近自然工法による整備を進め、今年度は県内外から延べ136人が参加しました。

谷川連峰の貴重な植生の保全・回復や登山者の安全確保に向け、「どう整備するか」を参加者で考えながら作業しました。

参加者からは「今後は登山道を大切に歩きたい」「山や植物に優しいルートを意識したい」といった声が寄せられ、自然を未来へつなぐ意識を、より一層深める機会となりました。



ステップの構築



整備した箇所の経過を確認



木道の取り外し



整備箇所まで資材を運ぶ



木道の整備

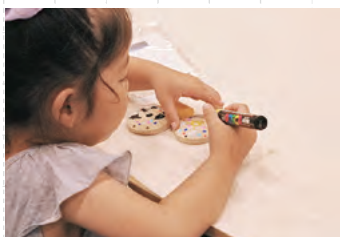


全国幼児教育研究大会で「木育」の重要性を伝える

8/6~7

第74回全国幼児教育研究大会が、19年ぶりに群馬県で開催されました。より良い幼児教育を探究する本大会で、みなかみ町は「木のぬくもりを体で感じようー森のカスタネットや木の飾りをつくろうー」と題し、木育をテーマとした分科会を担当しました。全国の幼児教育関係者のほか、多くの親子が参加しました。

さまざまな種類の木に触れたこどもたちは、素材で異なるカスタネットの音を聞き比べるなど、木と触れ合う時間を過ごしました。



▲全国から集まった参加者によるグループ協議

また、教育関係者によるワークショップでは、幼少期から電子機器に触れる機会が増えている現代において、木の手触りや音、香りなどを「五感」で直接体感する重要性について、参加者全員で考えました。

みなかみ町は、単に「自然を守る」だけでなく「自然を豊かにする」というネイチャーポジティブの考え方を重視しています。森林資源の活用を通じて、生物多様性や地域社会について自ら考える力を養う取り組みを推進しています。

今こそあらためて

みなかみユネスコエコパーク
について語ろう Vol.5

～みなかみの水のお話～

Q みなかみ町の水道水はおいしいの？

A 「おいしい」と感じるかどうかには、個人差があるため一概には言えません。ただ、みなかみ町の水道水が「いい水」であることは間違いありません。谷川岳をはじめとする町内の山々に降った雪や雨が大地にしみ込み、長い時間をかけて地層のろ過を受け湧き出た水や地下水、また川として流れ出た水が良い状態で各ご家庭へ届けられています。蛇口をひねれば、山の恵みが流れ出てくる。それはとても贅沢なことなのかもしれません。

Q みなかみ町の水道水の特徴は？

A 町内でも水源によって水質に違いがありますが、みなかみ町の水道水は、おおむね弱アルカリ性の軟水です。軟水は、出汁をとる料理や、お茶、コーヒー、炊飯などに適しているとされています。また、水道水のもととなる水源が清浄で冷たいことから、必要な浄水処理を行ったうえで、消毒に必要な塩素濃度をできるだけ抑える工夫もしています。豊かな自然に育まれた水を、できるだけその良さを生かして届ける。それが、みなかみの水の良さの秘訣です。



ユネスコエコパークをめぐる10月の動き

- 10月17日-18日 「ぐんま山フェスタ」へ参加
- 10月24日-25日 自伐型林業研修(2回目)
- 10月29日 赤谷プロジェクト企画運営会議
- 10月31日 赤谷の森自然散策会(旧三国街道)





地域おこし協力隊の活動

株式会社plower所属 坂東 ゆりさん

地域おこし協力隊の坂東ゆりです。今年で着任2年目を迎えました。「株式会社plower」が運営している施設を拠点に、関係人口の創出と交流の活性化を目的に活動をしています。都市部企業の関係人口化を目的としたワーケーションの推進に取り組んでおり、宿泊・日帰りの企業研修での利用も広がってきました。

ワーケーションの推進以外にも、各拠点の集客に加えて拠点間の送客を増やし、観光客のみならず町内を周遊しながら滞在を楽しんでいただく仕組みづくりに力を入れています。店頭での相互案内をはじめ、拠点を巡るスタンプラリーの設置など、1つの拠点から町全体の魅力へと繋がるアプローチを推進中です。

これからも広報や接客を通して認知を拡大し、みなかみ町を訪れ関わってくださる関係人口を増やせるよう励んでいきます。

注釈：ワーケーションとは？

Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワークなどを活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。



▲全スタッフで研修を実施



▲運営施設で行われた企業研修の様子

まちづくり協議会だより 第86号

問 まちづくり協議会事務局（企画課）

☎ 0278（25）5030

谷川岳は温泉とともに、地域の観光における重要なPRポイントです。この谷川連峰では、山小屋やガイド、指定自然保護活動に携わる方々など、多くのみなさんが様々な角度から山や登山者を見守ってくださっています。しかしながら、近年の気候変動により、雪や雨の影響で登山道が荒廃しつつあるのが現状です。登山者がいる限り、安全な環境を維持するための対策が必要です。



▲登山道整備の様子

私たちもまちづくりの一環として、現在の登山道の整備を続け、少しでも安全を保てるよう努めるとともに、登山者がルート外へ立ち入らないよう工夫しながら活動しています。一方で、今後の活動継続には高齢化などによる担い手不足への不安もあります。谷川岳の自然と安全な登山環境を守り、これからも地域の大切な観光資源として次の世代へつなげていくために、みなさんのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

まちづくり協議会水上支部
谷川地区